

「子ども国際理解サマースクールを振り返って」 ー世界に目を向けるきっかけづくりを協働でー

宇都宮市東生涯学習センター 鷹簀 雅子

宇都宮市東生涯学習センターの「子ども国際理解サマースクール」は、2007年から小学生の4年生～6年生を対象に、日本に暮らす外国の人たちと子どもたちが接することで世界に目を向けるきっかけにしてほしいと行っている講座です。

2009年からは宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターのみなさんと協働で行うようになり(2010年度から東生涯学習センターとHANDSの協働)、多くの国の留学生やゼミ生にはプログラム作りや運営まで関わっていただくようになりました。

留学生自身が自分の国を生活者目線で子供たちに伝えたり、幼いころの遊びを一緒に楽しんだり、お昼を食べながら交流したり等々、直に留学生と子どもたちが触れあえる講座のプログラムは学生らが時間をかけ練り上げたもので、これまで10年間に世界の多くの国を取り上げてきました。

2013年度まで行われたブラジリアンスクールの子供たちとの交流では、ブラジルと日本の子どもたち同士が、講座の中でお互い知恵を絞りあうクイズや体を使っての楽しいゲーム等を組み込みました。ドキドキしながらもすぐ打ち解けあい、「言葉が違って心と心で会話ができた」(参加児童のアンケートから)と感じられたプログラムでした。

また、2016年のタイの留学生らが脚本、出演した寸劇では、『タイに引っ越した日本の女の子がタイの小学校で体験する異文化を紹介する』という設定で、等身大のタイの生活を寸劇という面白い手法で生き生きと子どもたちに伝えました。

そして、2017年フィリピンに焦点を当てた際には、『ゴミの山で暮らす子供たち』という国際社会問題にもフォーカスし、ワークショップを通じて、ゴミの山からお金になりそうなものを拾い集めては換金し家計の足しに一生懸命生きる子供たちと日本の子どもたちの置かれている環境の違いを浮き彫りにしました。

改めてこの講座の10年間を振り返って強く感じたことは、HANDSプロジェクトのみなさんの若い感性や行動力が講座にいかに重要な部分で作用しているかということ、そして多様性に満ちたプログラムによって子どもたちの瞳がキラキラと輝く瞬間にいくつも出会えたことです。今

後も協働での活動が続くことを願いつつ、これまで以上に、子どもたちが新しい世界を楽しいと味わえるような講座を一緒につくっていきたいと感じています。

学生の声

サマースクールの要約・内容

国際学部国際学科3年 アジモフ サルワルジョン

私は去年の夏休み、国際学部の田巻先生が指導する「サマースクール」プログラムに参加させてもらった。このプログラムは、宇都宮大学の留学生が自分たちの国のことを日本の小学生子供たちに紹介するようなものであった。

ウズベキスタン出身で、現在宇都宮大学在学中の私も母国ウズベキスタンの紹介をした。私が発表した内容には主に、ウズベキスタンの歴史や文化、ウズベキスタンの小学校制度や小学生の生活などの部分が含まれていた。発表の前半では、ウズベキスタンの最近の歴史はソ連と密接につながっていること、ウズベキスタンは昔の貿易路シルクロードの中核に位置していたことなどを話した。後半の方ではウズベキスタンと日本の小学校制度の相違点に触れ、ウズベキスタンの小学校は日本のそれと異なって4年制であること、学期の始まる時期が4月ではなく9月であることなどについて話をした。発表が終わってから少し質疑応答の時間を設け、参加者の小学生たちが内容をどれくらい理解できたかを確かめた。子供たちはすべての質問に正しく答えていて、とても嬉しかった。

本プログラムは結局、小学生の子供たちにとって、日本以外の文化にルーツを持つ学生らから、違う文化、違う習慣、違う価値観などについて聞けるととても良い場であった。それと同時に、発表者大学生にとっても、大学などでやるのと違うような形で発表できる良い機会であったでしょう。

ここ数十年発達してきたグローバル化の影響で、日本もだんだん様々な国籍を持つ人々と共に暮らさなければならない多文化共生社会になっていくに違いない。そうすると、日本人もより多くの外国国籍の人と関わり、いろいろな価値観や考え方を理解できるようにならないといけない。「サマースクール」プログラムも、目標の一つとして、上述のものをも取り入れているのではないかと考えた。今回あったように、さまざまな背景を持つ人々と

出会い、異なる文化や地域について知ることによって彼らの世界観が広がり、これからあらゆる場面で「異なる人」と向き合うときに困難はないでしょう。

当日の子供たちの新しい情報を知った時の表情、外国にルーツを持つ我々が自分たちの文化について日本人子


供たちに聞いてもらえた上での我々の満足感から、このようなプログラムはこれからも数多く採用され、定期的に実施していくべきだと思った。それが、現在日本における外国に対する距離感の急速な縮小をもたらすからである。

●HANDSnet Vol25(2020年3月13日)

国際理解サマースクールのこれまでのテーマ

2010 年	第1日目「It's a small world ～世界と私がこんにちは～」 第2日目「ゲームでアミーゴ！」 第3日目「知ってアミーゴ！」 第4日目「うつのみや世界旅行?!」 第5日目「同じと違うは同じ？」
2011 年	第1日目：テーマ「大きな世界・小さな世界」 第2日目：テーマ「ゲームでアミーゴ！」 ◆ソシエダデ・エドゥカシオナウ・ブラジリアン・スクール (Sociedade Educacional Brazilian School) の子どもたちとの交流 第3日目：テーマ「知ってアミーゴ！」
2012 年	第1日目「ゲームいっぱい(^) 友だちいっぱい♡」 ◆ソシエダデ・エドゥカシオナウ・ブラジリアン・スクール (Sociedade Educacional Brazilian School) に通う児童生徒との交流 第2日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2012～ネパール編～」
2013 年	第1日目「ゲームいっぱい(^) アミーゴいっぱい♡」 ◆ソシエダデ・エドゥカシオナウ・ブラジリアン・スクール (Sociedade Educacional Brazilian School) に通う児童生徒との交流 第2日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2013 ～ブータン王国編～」
2014 年	第1日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2014 ～韓国編～」 第2日目「世界を感じよう 2014 ～宇大留学生たちとの交流～」
2015 年	第1日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2015～アンデス編」 第2日目「世界を感じよう 2015～宇大留学生たちとの交流」
2016 年	第1日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2016 ～タイ王国編～」 第2日目「世界を感じよう 2016～宇大留学生たちとの交流～」
2017 年	第1日目 台風接近のため中止 第2日目 午前「世界を知ろう&世界から学ぼう 2017～フィリピン～」 午後「世界を感じよう 2017～宇大留学生たちとの交流」
2018 年	第1日目「世界を知ろう&世界から学ぼう 2018～中国編～」 第2日目「世界を感じよう 2018：宇大外国人学生達との交流」 (中国、韓国、ベトナム、香港、ペルー)
2019 年	第1日目「世界を感じよう 2019～宇都宮大学外国人学生たちとの交流～」 (ウズベキスタン、中国、ベトナム、ペルー)

☀ 学習プログラム ☀

回	日 時		テーマ・内容
1	8月8日 (水)	午前 10 時 ～正午	「世界を知ろう & 世界から学ぼう 2018」 ～中国編～ <ul style="list-style-type: none"> 中国の生活文化についてのお話、クイズ 中国語で歌を歌おう 工作体験（メンコ、切り絵） 中国のお菓子「沙琪瑪（サチマ）」の試食 アーモンドジュース「露露杏仁露（ルールーシンロンルー）」の試飲 カンフー体験（講師：高龍 勝弘 先生）
2	8月10日 (金) ※台風接近のため、 予備日に 変更しまし た。	午前 10 時 お弁当 タイム ～午後 2 時	「世界を感じよう 2018」 ～宇大外国人学生たちとの交流～ <p>中国、韓国、ベトナム、香港、ペルー出身の外国人学生の皆さんが来てくれました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲーム（じゃんけん列車、ハンカチ落とし） 民族衣装の試着 各国の言葉や生活文化についてのお話、クイズ 

この講座は、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS 部門の協力を得て実施しました。

☀ 学習プログラム ☀

回	日 時		テーマ・内容
3	8月8日 (木)		「世界を感じよう 2019」 ～宇大外国人学生たちとの交流～ <ul style="list-style-type: none"> ウズベキスタン、中国、ブラジル、ベトナム出身のお兄さん、お姉さん達と一緒にゲームや遊びをします。 各国の国旗・言語・面積・民族衣装などの基本情報 1年の学校生活の流れや授業のはじまり方、学ぶ教科の種類、給食などの1日の流れ

★この講座は、宇都宮市国際交流プラザと宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS 部門の協力を得て実施しました。



サマースクール2018年と2019年集合写真